

## 体育科学学位プログラム（博士後期課程）

Doctoral Program in Physical Education, Health and Sport Sciences

- 博士（体育科学）
- Doctor of Philosophy in Health and Sport Sciences

### 人材養成目的 / Program Educational Objectives

体育・スポーツ・健康科学分野に関連する現代社会の課題解決への貢献をめざし、卓越した研究・教育活動を行うために必要とされる高度な能力及びその基盤となる豊かな学識や実践力を持ち、グローバルな視点にたってリーダーシップを発揮できる人材を養成する。

<b>養成する人材像</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 体育・スポーツ・健康科学等の分野において高度専門的知識を持ち、教育研究機関において、国内外の教育・研究機関における教員や研究員</li> <li>- 体育・スポーツ・健康科学等の分野においてリーダーシップを発揮し、行政機関やスポーツ競技団体において将来計画を立案・実行できる人材</li> <li>- 最先端の研究技法を駆使して、グローバルなレベルで問題解決できる能力を持つ研究者</li> <li>- 俯瞰的な視野と柔軟な思考力を有し、様々な領域の人材とチームを組んで課題を解決する能力を持つ研究コーディネーター</li> </ul>
<b>修了後の進路</b>	<p>体育・スポーツ・健康科学研究におけるリーダーとして、国内外の国公立大学等の教育研究機関の教員・研究員、企業および公的研究機関における研究員、行政機関やスポーツ競技団体の主要な役職員。</p>

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学大学院学則及び関係規則に規定する博士後期課程の修了の要件を充足したうえで、次の知識・能力を有すると認められた者に、博士（体育科学）の学位を授与する。

	コンピテンス	評価の観点	対応する主な学修
知識・能力	1. 知の創成力：未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	①新たな知の創成といえる研究成果等があるか ②人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	研究方法論Ⅰ（必修科目）、健康スポーツ科学研究演習Ⅰ・Ⅱ（必修科目）、プロジェクトローテーション、課題解決研究Ⅰ・Ⅱ、研究計画作成、学位論文作成（学位取得の条件）、学会発表（健康スポーツ科学研究演習Ⅰにおいて学会発表を行う必要がある）など
	2. マネジメント能力：俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	①重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ②専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	研究方法論Ⅱ、健康スポーツ科学研究演習Ⅰ・Ⅱ（必修科目）、プロジェクトフォーラムⅠ・Ⅱ、体育専門学群「体育科学シンポジウム」企画・運営、国内・国際学会運営補助経験など
	3. コミュニケーション能力：学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	①異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ②専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えとともに、質問に的確に答えることができるか	研究セッション（必修科目）、学際ディベート合宿Ⅰ・Ⅱ、学会発表（健康スポーツ科学研究演習Ⅰにおいて学会発表を行う必要がある）、セミナーでの質問
	4. リーダーシップ力：リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	①魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ②目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力はあるか	研究方法論Ⅱ、健康スポーツ科学研究演習Ⅰ・Ⅱ（必修科目）、プロジェクトフォーラムⅠ・Ⅱ、体育専門学群「体育科学シンポジウム」企画・運営、国内・国際学会運営補助経験など
	5. 国際性：国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	①国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ②国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	健康スポーツ科学研究演習Ⅰ・Ⅱ（必修科目）、学際ディベート合宿Ⅰ・Ⅱ、国際フォーラムⅠ・Ⅱ、Global Communication Skills Training（大学院共通科目）、国際会議発表、国際セミナーでのディスカッション、英語論文など

	コンピテンス	評価の観点	対応する主な学修
知識・能力	6. 研究力：体育・スポーツ・健康科学分野における最新の専門知識に基づいて先端的な研究課題を設定し、自立して研究計画を遂行できる能力	①最新の専門知識に基づいて先端的な研究課題を設定できるか ②設定した研究課題を解決するために自立して研究計画を遂行できるか	研究方法論 I（必修科目）、研究セッション（必修科目）、学位論文作成（学位取得の条件）
	7. 専門知識：体育・スポーツ・健康科学分野における先端的かつ高度な専門知識	体育・スポーツ・健康科学分野における先端的かつ高度な専門知識を身に付けたか	健康スポーツ科学研究演習 II（必修科目）、学位論文作成（学位取得の条件）
	8. 実践力：体育・スポーツ・健康科学分野の研究者または高度専門職業人として身につけた高度な専門知識を社会で活用する能力	①体育・スポーツ・健康科学分野における先端的かつ高度な専門知識を伝達できるか ②体育・スポーツ・健康科学分野における先端的かつ高度な専門知識を運用できるか。	課題解決研究 I、プロジェクトフォーラム I、学会発表（健康スポーツ科学研究演習 I において学会発表を行う必要がある）、TA 活動
	9. 倫理観：体育・スポーツ・健康科学分野の研究者または高度専門職業人にふさわしい倫理観と倫理的知識、および専攻する特定の分野に関する深い倫理的知識	①体育・スポーツ・健康科学分野に関する深い倫理的知識をもっているか。 ②研究者または高度専門職業人にふさわしい倫理観を持っているか。	研究方法論 I（必修科目）、健康スポーツ科学研究演習 I（必修科目）、研究倫理（大学院共通科目）

<p><b>学修成果の評価に関する方針</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 学修成果の評価は、学位授与の方針に基づくコンピテンスの修得状況を「達成度評価表（ループリック）」により、確認・評価をすることで行う。</li> <li>- 第一段階：博士論文研究報告会において、全研究指導担当教員がループリックに基づき審査を行う。指導教員は、論文審査と口頭試問、研究業績の定量的な評価、および研究計画書や進捗報告書の評価を組み合わせ評価する。</li> <li>- 最終段階：博士論文研究審査会において、学位論文審査委員会の体育科学学位プログラムの教員がループリックに基づき審査を行い、教育会議において全教員で最終達成度審査を行う。具体的な指標としては、①履修科目を通して習得した高度な専門知識・能力、②博士論文の内容（新規性、論理性、貢献度）、③論文投稿の実績、④研究計画立案や課題解決能力の発揮状況などが挙げられる。</li> </ul>
<p><b>学位論文に関する評価の基準</b></p>	<p>筑波大学大学院学則に規定された要件を充足した上で、主査1名、副査3名以上で構成する学位論文審査委員会により、学位論文が下記の評価項目について妥当と認められ、かつ、学位論文に関する口頭発表および質疑による最終試験で合格と判定されること。</p> <p>(評価項目)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関連分野の国内外の研究動向及び先行研究の把握に基づいて、体育科学分野における当該研究の意義や位置づけが明確に述べられていること。</li> <li>2. 国際的な体育科学分野の発展に寄与する先進的かつ独創的な研究成果が、博士学位論文に相応しい量含まれていること。</li> <li>3. 研究公正についての十分な知識に基づき、研究結果の信頼性が多角的に検証されていること。</li> <li>4. 研究結果に対する考察が妥当であるとともに、結論が客観的な根拠に基づいていること。</li> <li>5. 研究の背景、目的、方法、結果、考察、結論等が、体育科学分野の博士学位論文に相応しい形式にまとめられていること。</li> </ol>

### 教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

体育科学学位プログラムは、体育学学位プログラムのスポーツ文化・経営政策、健康・スポーツ教育、ヘルスフィットネスおよびコーチング科学等の教育・研究指導を、より高度なレベルで実施する学位プログラムである。

そして、体育・スポーツ・健康科学分野で卓越した指導・実践力、かつグローバルな視点でリーダーシップを発揮できる人材を養成するため、以下の二つの履修モデルを設けて教育・研究指導を行う。

- 標準履修モデル：体育・スポーツ・健康科学分野等の分野において幅広い基礎知識（専門基礎科目）と高度な専門的知識（専門科目：研究応用科目）を修得し、さらに様々な領域の人材とチームを組んで課題を解決する能力（専門科目：研究実践科目）、グローバルな視点で課題を解決する能力（専門科目：国際研究科目）を修得できるように教育・研究指導を行う。
- 次世代健康スポーツ科学履修モデル：体育・スポーツ・健康科学分野等の分野において幅広い基礎知識（専門基礎科目）と高度な専門的知識（専門科目：研究応用科目）を修得し、さらに産業・地域・競技団体などの「実践フィールド」における人材とチームを組んで課題を解決する能力（専門科目：研究実践科目）、グローバルな視点で課題を解決する能力（専門科目：国際研究科目）を修得できるように教育・研究指導を行う。

<p><b>教育課程の 編成方針</b></p>	<p>下記に示す体育科学学位プログラムにおける科目を軸として、関連する分野の基礎的素養や広い視野、汎用的知識・能力の涵養に資するよう、研究群共通科目、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目から3単位以上履修することを推奨する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 「研究方法論Ⅰ」「健康スポーツ科学研究演習Ⅰ」などにより、新たな知を創成する能力を身に付ける。</li> <li>- 「研究方法論Ⅱ」「プロジェクトフォーラムⅠ・Ⅱ」などにより、俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力を身に付ける。</li> <li>- 「研究セッション」「学際ディベート合宿Ⅰ」などにより、学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力を身に付ける。</li> </ul>
<p><b>教育課程の 編成方針</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 「研究方法論Ⅱ」「プロジェクトフォーラム」「国内・国際学会運営補助経験」などにより、リーダーシップを発揮して目的を達成する能力を身に付ける。</li> <li>- 「学際ディベート合宿Ⅰ・Ⅱ」「国際フォーラムⅠ・Ⅱ」「国際会議発表」「国際セミナーでのディスカッション」などにより、国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲を身に付ける。</li> <li>- 「研究方法論Ⅰ」「研究セッション」「学位論文作成の指導」などにより、自立して研究計画を遂行できる能力を身に付ける。</li> <li>- 「健康スポーツ科学研究演習Ⅱ」などにより、高度な専門知識を社会で活用する能力を身に付ける。</li> <li>- 「研究方法論Ⅰ」「研究セッション」などにより、深い倫理的知識を身に付ける。</li> </ul>
<p><b>学修の方法 特色的な教育</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 1年次において、「研究方法論Ⅰ」及び「研究セッション」を必修として、幅広い基礎的な研究力・実践力を修得させる。</li> <li>- 1年次において、「健康スポーツ科学研究演習Ⅰ」（通年）を必修として、研究の応用面についても学修させる。</li> <li>- 1年次において、研究報告会Ⅰにおいて研究計画書を発表させ、学位取得までの課題を再検討させる。また、指導体制を確定させる。</li> <li>- 1年次において、次世代健康スポーツ科学履修モデルでは、実践フィールド（学校、競技、地域、企業）を設定し、社会的課題等を設定させる。</li> <li>- 2年次において、「健康スポーツ科学研究演習Ⅱ」を必修とし、また「課題解決研究Ⅰ、Ⅱ」を通して、より高度な研究力・実践力を修得させる。</li> <li>- 2年次において、国内・国際学会における研究発表を通して、学位論文に向けた研究活動に関して外部からの評価・指導を受けさせる。</li> <li>- 2年次において、次世代健康スポーツ科学履修モデルでは実践報告書を作成させる。</li> <li>- 3年次において、研究報告会Ⅱにおいて研究の進捗を発表させ、学位論文作成までの課題を再検討させる。</li> <li>- 3年次において、学位プログラム内指導教員3名と、できる限り学位プログラム外指導教員1名（副査予定者）を加えた指導体制において予備審査会を実施させる。</li> <li>- 3年次において、学位論文審査会において、学位論文の審査を行う。</li> </ul>

### 入学者受入れの方針 / Admission Policy

<p><b>求める人材</b></p>	<p>スポーツ活動の実践や運動指導の経験を踏まえ、体育・健康・スポーツに関わる諸現象に対して高い関心を持ち、そこから派生する諸問題の解決に向けた研究の推進及び成果の公開、さらに教育者・研究者として必要な知識・技能の習得並びに協同して社会的課題に取り組むことに情熱を持つ人材を求める。</p>
<p><b>入学者選抜方針</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 研究概要と研究計画書をもとに口述試験を行い、研究者としての基礎的な能力および標準履修年限内での学位取得が可能かを評価する。</li> <li>- 外部英語試験（TOEFL, TOEIC）をもとに、国際情報発信能力を評価する。</li> </ul> <p>入学後、次世代健康スポーツ科学履修モデルの履修を認める学生を別途選抜する。</p>

### 学修支援体制 / Learning Support Framework

<p><b>学修支援</b></p>	<p>博士課程における効果的な学修を支援するため、本学位プログラムでは以下の取り組みを実施している。まず、研究成果を論理的かつ的確に表現する力を養うため、段階的なライティングサポートを提供し、学術論文の執筆能力を育成している。また、複数教員による指導体制を整備し、異なる専門領域の視点を取り入れた学際的な研究指導を行うことで、研究の深化と視野の拡大を図っている。さらに、学会発表や口頭試問に備えたプレゼンテーション指導も行い、伝える力の強化に努めている。加えて、学位取得後の進路を見据えた支援として、本学位プログラム修了生との連携によるキャリア支援フォーラムを開催し、多様なキャリアパスの形成を後押ししている。これらの取り組みにより、博士課程学生の自立した研究者としての学修を総合的に支援している。</p>
<p><b>学生同士の交流機会</b></p>	<p>本学位プログラムでは、学修意欲および研究の質の向上を目的として、学生間のピア効果を高める取り組みを行っている。具体的には、月に一度開催している研究報告会への参加を特に D1 学生に対して義務づけ、発表内容に対する積極的な質疑応答や意見交換を通じて、相互の理解と研究姿勢の向上を図り、また、同学年間の交流を促進することで、学年横断的な学び合いの基盤を形成している。加えて、合宿型の授業を導入し、研究内容の討議や共同作業を通じて、学生同士の関係構築や学術的刺激を得られる環境づくりに努めている。これらの取り組みにより、学生が互いに切磋琢磨しながら学ぶ風土を醸成し、研究活動の活性化につなげている。</p>
<p><b>教員との交流機会</b></p>	<p>本学位プログラムでは、大学院生の学修意欲や研究の質の向上を図るため、学生と教員の交流を促進する以下の取り組みを行っている。各学期に開催するキャリア支援フォーラムの終了後に、教員・学生・修了生（OB・OG）を交えた懇親会を実施し、研究分野や立場を超えた自由な意見交換の場を設けている。特に、通常の研究活動では接点の少ない他領域の教員や学生、さらには他大学の教員とも交流できる環境を整えることで、新たな視点の獲得や共同研究の可能性を広げている。また、研究報告会後には、複数の教員からフィードバックを得られる事後指導の機会を設けており、研究内容の深化や課題の明確化に役立っている。これらの取り組みにより、学生の研究活動を活性化させるとともに、教員との信頼関係の構築や学際的な連携の促進を図っている。</p>

### 教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

博士課程における教育の質の向上に向けては、定期的な自己点検・評価をはじめ、他大学あるいは他専攻・学位プログラムの指導教員を含む第三者評価を実施することで、学生の学修成果に関する評価を行い、教育課程・指導体制の妥当性や指導の適切性を検証する。また、学生による授業評価アンケートや研究進捗の報告会を通じて、教育・研究指導の状況を把握し、個別指導の改善に活かしている。さらに、学位論文の中間発表や予備審査等の機会を設け、複数教員による多面的な指導と評価を行う体制を整えている。加えて、教員のFD（Faculty Development）活動への参加を促し、教育手法の高度化や研究倫理教育の充実にも取り組んでいる。これらの取り組みにより、博士課程教育の質の継続的な向上とその保証を図っている。